

平成 19 年度ホタテガイ採苗情報（第 6 報）

平成 19 年 5 月 31 日

発行：岩手県水産技術センター

協力機関：沿岸地方振興局水産部

「稚貝の付着は続いています。」

1 ラーバの出現状況

5月30日に唐丹湾でラーバ調査を行いました。

ホタテガイラーバの出現数は、殻長 $200\mu\text{m}$ 未満が14個/トン、 $200\mu\text{m}$ 以上が14個/トンでした。前回調査時（合計27個/トン）より減少しましたが、付着間近の大型ラーバが確認されています。

調査時の水深10m層の水温は 11.4°C と、前回調査時より 0.8°C 上昇し、平成9～18年の平均値より 0.9°C 高い値になっています。

2 試験採苗器による付着稚貝調査

5月25日以降の調査において、宮古、釜石および大船渡地区で付着稚貝が確認されています。

各調査点の付着数は405～1,971個/袋でした。付着数は、大船渡地区で増加し、宮古と釜石地区で減少しましたが、各調査点で多くの稚貝が付着しています。

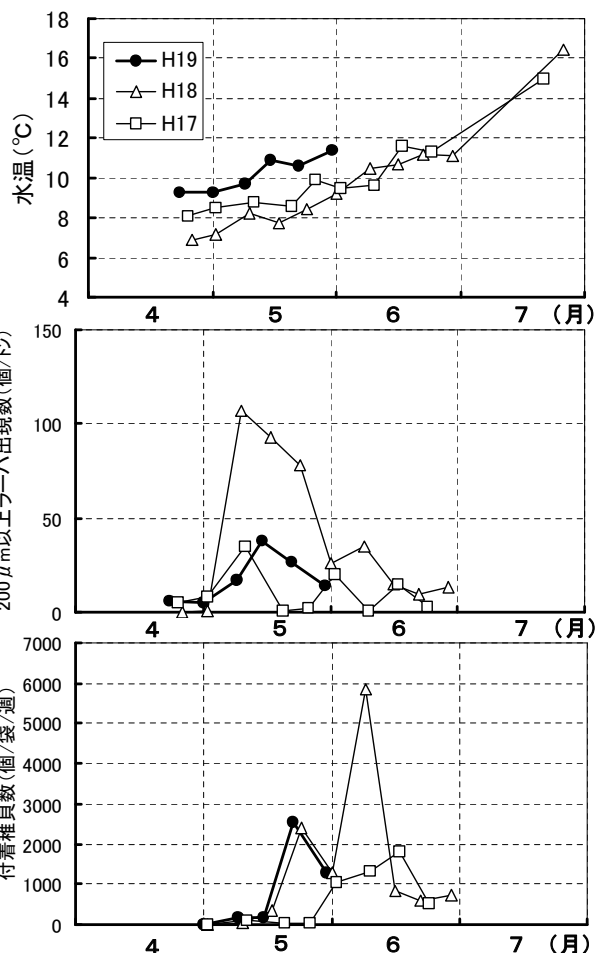


図 唐丹湾における水深10m層水温とホタテガイラーバ・付着稚貝の出現状況

なお、唐丹湾では、付着稚貝の約5%にあたる78個/袋が付着直後の個体でした。

県内各地で、稚貝の付着数の多い状態が3週間以上続いていることから、付着数の増加にあわせて投入した採苗器には、稚貝が順調に付着しているものと考えられます。

次回は、7月下旬に付着稚貝調査（7月中旬実施予定）の結果についてお知らせする予定です。

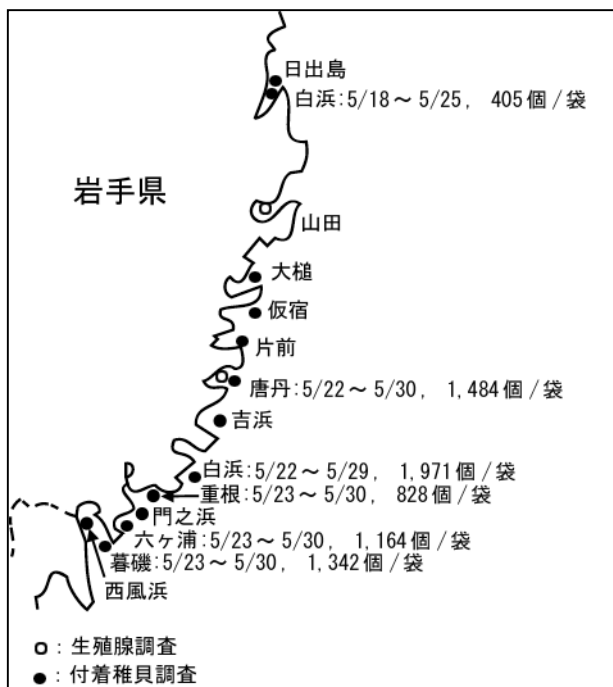


図 調査点と付着稚貝調査結果